

## 地域での取組み

### 2 地域で続く祭りや慣習を継ぎ創ることが地域防災力を高める

住民間の協力体制を災害時にも有機的に機能させるためには、地域で継承されてきた生活と密着した活動にも目を向けることが必要である。なぜならば、地域で続く風習や祭礼を継承することによって地域の結束力を高め、その結束力が地域防災力の強化に繋がるからである。伝建地区は現代の都市防災の視点から見ると、一般市街地以上に脆弱なところが多い。防災上の弱点が多い歴史文化遺産の保護と、人々の安全安心な暮らしの確保の両立が求められるために、脆弱性を排除して機械化された技術に依存するような防災対策は不可能であり、地域の防災を考える上で社会関係資本の活用が不可欠な地域といえる。

桜川市真壁地区では、400年以上の歴史を持つ真壁祇園祭によって地縁的な繋がりを強くしてきた。この祭りを持続させて来たのが世話人制度と呼ばれる年功序列型組織で、若衆・世話人・中老・大老といった階層構造が祭りに関わる様々な議題を決定してきた。この祭りと防災との関わりに関して、40～70代の元消防団長やまちづくり団体副会長、市職員、主婦などにヒアリング調査を行ったところ、「祭りと消防団の組織は一緒ではないが、両者の繋がりは強く、重複しているメンバーが多いこと」、「祭りも消防団も地域が次代の担い手を育ててきたこと」、「大老長が区長を兼務してきたこと」などを聞き取ることができた。各者の意見から、祭りが地域づくりに重要な役割を果たしてきたこと、さらに祭りと行政区や消防団との繋がりが強いことがわかり、伝統的な祭礼の継承によって地域の地縁的な繋がりを強固にすると共に、地域の担い手が生まれ、災害時にも有機的に機能する結束力の高い社会関係資本が築かれてきたことがわかった。このような伝統的祭礼と防災組織との強い繋がりは、例えば高山市高山三町伝建地区<sup>1)</sup>も同じであり、各町組ごとに屋台を有する屋台組を構成し、江戸時代から結束力の強い組織が継承されている。この高山の屋台組は、ほぼそのまま自衛消防団組織と重なり、三町伝建地区では町並み保存会自衛消防隊となっている。

ロバート・パットナム<sup>2)</sup>は、ソーシャル・キャピタルを「人々の協調行動を活発にすることによって社会の効率性を向上できる、人々の信頼関係や互酬性の規範、社会的ネットワークといった社会組織の特徴」と定義し、それが豊かならば人々は互いに信用し自発的に協力すると論じた。その基本的な分類として、結合型と橋渡し型がある。結合型は組織の内部における人と人との同質的な結びつきで、内部で信頼や協力、結束を生むものとし、橋渡し型は異なる組織間における異質な人や組織を結び付けるネットワークであるとされている。伊多波<sup>3)</sup>は、祭りとソーシャル・キャピタルの関係を探る中で、結合型の祭りはソーシャル・キャピタルの蓄積に貢献し、このことが当該地区のパフォーマンスを引き上げているという。真壁地区や高山三町地区のような伝統的な祭礼は、それを継承してきたことによって地域の結束力を高め、結果的に地域防災力の強化に繋がる効果を生み出してきたと言える。

しかし、少子高齢化や商業の衰退が進行する中で、真壁地区では伝統的な祭りを完全に継承することが難しくなっており、祭りと日常生活の関係性が弱体化しつつある。真壁地区の現在の地域の関係を概観すると図1のようになっている。大老長が自治会長を兼務することが無くなった町内や、祇園祭の世話人制度から脱退した町内、地元の担い手不足によって自衛消防組織を最近解散した町内などがある。栃木町地区と嘉右衛門町地区でも「秋まつり」と呼ばれる伝統的な祭りがあるが、真壁地区と同様に現在ではかつてのような職人・頭・旦那衆の組織は持続し得ず、また各町内には祭りを仕切る人材や財源が枯渇し、ボランティア・NPO・職人集団など地

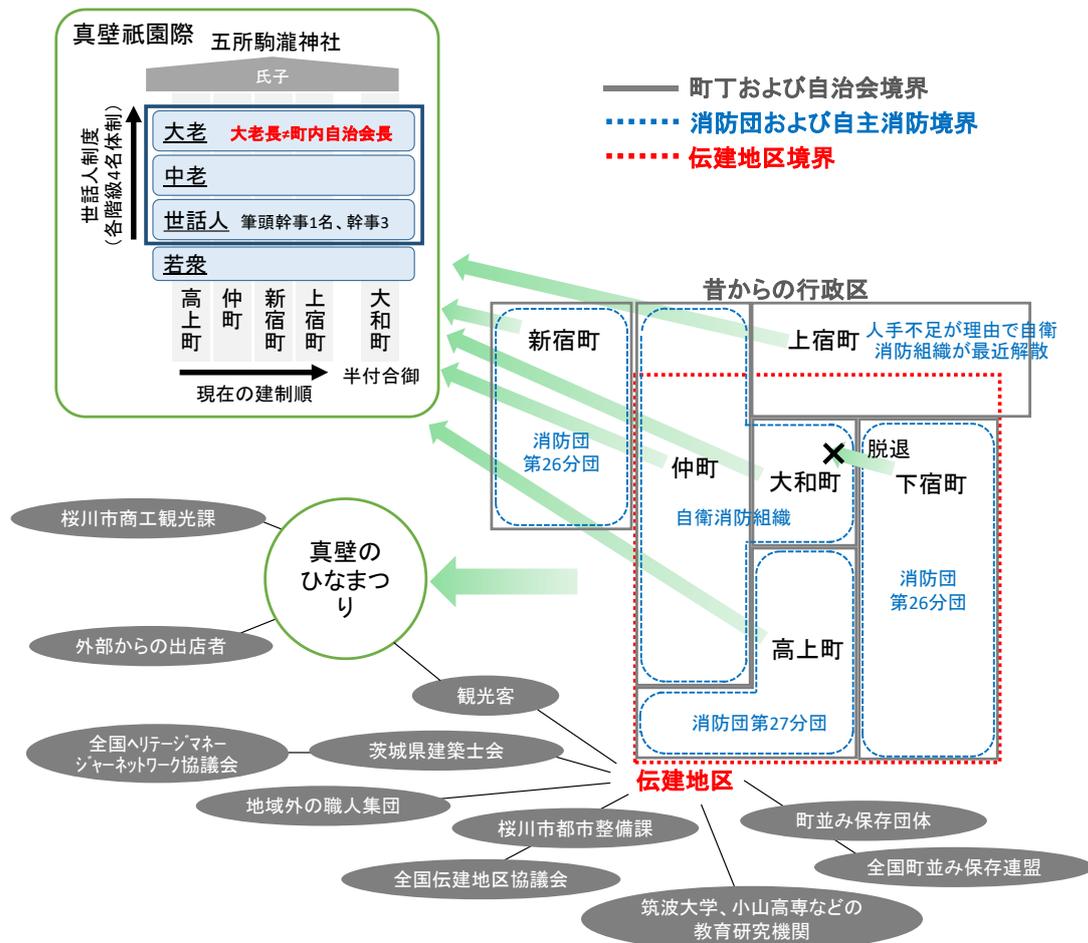


図1 現在の真壁地区の地域の繋がり

域外の組織の協力を得て持続している。この栃木の秋祭りに、本研究プロジェクト中に橋渡し的に地域と繋がった新たなアクターが参画できる機会ができた。地縁的な繋がりが強い伝統的な祭りで協働することにより、メインアクター（コミュニティの中で直接的な受益者となる住民ら）と支援アクター（総合防災を支援する関与者）との相互理解が深まり、信頼関係が構築されていく成果が得られた（写真1）。つまり、当初は内向きで外部アクターの参加が難しかった祭りは、現在では「橋渡し型」に変容して外部アクターと地域を繋ぐお見合いの場となり、外部アクターが「結束型」のソーシャル・キャピタルと融合していく装置としての重要な役割を果たしている。これにより、地縁的な繋がりによる自助や互助に加えて、支援アクターの共助や公助によっての地域の結束力を強固なものにし、地域のレジリエンスを高める社会関係資本が持続発展的に蓄積されていくと考える。したがって、かつて



写真1 伝統的な祭りへの参加によるメインアクターと支援アクターとの繋がり

は結束力を強固なものにしていた伝統的な祭礼を守りつつ、地域を取り巻く環境変化に順応させてその時代に適した体制を創ることが大切であると言える。

他方で地域の慣習などを継承することも地域の結束力を高める。輪番で拍子木や鐘を鳴らしながら地域を巡回する夜警(写真2)や夜番(写真3)、夜回り(写真4)などと称した活動を昔から継承している地域も多い。佐渡市宿根木伝建地区では、1軒毎の輪番制で毎日午後10時に拍子木を打ち、集落内の夜警を年間を通じて実施している。古くから実施している地域ぐるみの防災活動と自分たちの手で地域を守る精神を次の世代へ伝承している。江戸時代の大火から類焼火災は記録が無く、昭和60年に発生した部分焼けの建物火災を最後に火災は起きていないという<sup>4)</sup>。東御市海野宿伝建地区では、1734年の大火で下宿の58軒が焼失した後から、火事のないことを願い、下宿の住民が灯籠に灯りをつけて、一夜ずつ玄関前に置き、翌朝、次の家へと順番に廻す「廻し灯籠」(写真5)の慣習が続けられている。それらの地域で継承されている活動は、各自の防災意識の持続と防災に資するコミュニケーションの育成・増進に役立っている。ただし、地域で継承されてきた取組みに限らず、これから継承していく統一性や連帯性を高める新たな活動を創ることも地域における交流を深め、地域の防犯・防災に寄与する装置として効果が期待できる。例えば、嘉右衛門町伝建地区まちづくり協議会が実施している「花いっぱい運動」はその一例で、地域の発意によって新たに始められた事業である。地区内の各家庭の玄関先に同じ鉢植えを設置する取組みだが、町並みに統一性や一体性を生むだけでなく、毎日の水やりを子供たちの登下校時間に合わせるなどの工夫によって、互いを見守る体制が向上し、地域の防犯・防災に効果を発揮するだろう。



写真2 佐渡市宿根木伝建地区の夜警<sup>4)</sup>



写真3 若狭町熊川宿伝建地区の夜番



写真4 恵那市岩村本通り伝建地区の夜回り



写真5 東御市海野宿伝建地区の廻し灯籠

福島県下郷町の大内宿伝建地区では、2015年7月に伝統的建造物(特定物件)となっている建物の茅葺き屋根の煙出しに落雷した(写真6)。みんなが見ている前だったので、直ぐに消火活動に着手できた。屋根の茅の葺き替えに地元の人たちが協力していたために、みんな屋根に登ったことがあって状況を知っており、落雷があった時に直ぐに屋根に登る人と、家に入る人に分かれて、火がついた茅を下に叩き落とし、延焼の拡大を防ぐことができ、消防車が到着前に消火できた<sup>5)</sup>。日頃からの地域の互助が功を奏した事例である。



写真6 下郷町大内宿伝建地区で落雷被害にあった伝統的建造物

## 参考文献

- 1) 坊城俊成:高山の伝統的建造物群保存地区と祭、文化庁月報、p.27、2005年3月
- 2) Putnam, Robert D.: Making Democracy Work: Civic Traditions in Modern Italy. Princeton University Press. (河田潤一訳: 哲学する民主主義—伝統と改革の市民的構造、NTT出版、2001年)
- 3) 伊多波良雄: ソーシャル・キャピタルとしての“まつり”の可能性、大阪ガスエネルギー・文化研究所、情報誌 CEL、Vol.100、pp17-18、2012年3月
- 4) [http://www.bousaihaku.com/cgi-bin/hp/index2.cgi?ac1=B742&ac2=B74201&ac3=6131&Page=hpd2\\_view](http://www.bousaihaku.com/cgi-bin/hp/index2.cgi?ac1=B742&ac2=B74201&ac3=6131&Page=hpd2_view)
- 5) 山本玲子: 全国の町並みにおける火災事例、でんけん特別号 防災と地域～「関東町並みゼミ in 栃木」報告書～、p.22、2015年12月